

令和五年度 国際学級帰国生入学試験問題

令和四年十二月四日 実施

国 語 (三十分)

「注 意」

- 一、試験開始の指示があるまで問題を開いてはいけません。
- 二、問題冊子は7ページあります。試験開始後すぐに確かめてください。
- 三、解答はすべて解答用紙に記入してください。
- 四、問題冊子の表紙および解答用紙に受験番号（算用数字）と氏名をはっきり書いてください。
- 五、字数制限のある場合、句読点・カッコなどはすべて字数に数えます。
- 六、試験終了後、解答用紙だけでなく問題冊子も回収します。
- 七、試験中、机の上から物を落としたり、気分が悪くなったり、何か用ができな時は、手をあげて監督かんとくの先生に知らせてください。

受験番号

氏名

東京女学館中学校

一、次の短文中の傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。

1 今日はソウジ当番の日だ。

2 センモン家の意見を聞く。

3 お正月にハツユメを見た。

4 器具をテンケンする。

5 サンピ西論に分かれる。

6 写真のゲンゾウをする。

7 駅前の大きなカンバン。

8 手紙をユウソウする。

9 シツシツな生活。

10 商店をイトナむ。

二次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作権の都合上掲載できません。

著作権の都合上掲載できません。

※ 出題の都合上、一部表現のしかたを変えたり、省略したりしたところがあります。
(レイチエル・カーソン著 上遠恵子訳『センス・オブ・ワンダー』より)

問一 本文中の

A

D

 の中に入る語として適当なものを、次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア さらに イ もし ウ たとえば エ むしろ オ かし

問二 本文中の

I

 に入る、「自然」の対義語を漢字で答えなさい。

問三 — 線部①「解毒剤」とありますが、ここでは何を「解毒剤げどくざい」にたとえていますか。本文中からそのまま抜き出して答えなさい。

問四 — 線部②「わたしは……固く信じています。」とありますが、筆者が、「知る」ことよりも「感じる」ことを重要に考えるのはどうしてですか。その理由を四十字以内で答えなさい。

問五 — 線部③「消化する能力」とありますが、どのような能力のことですか。説明としてもっとも適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 感じたことを元にして、新たな知識を身につける能力。

イ 与えられた知識を正しく理解して、活用する能力。

ウ 食べたものを栄養に変えて、自らを成長させていく能力。

エ わからないことを自分で調べて、わかるようになる能力。

問六——線部④「子どもが知れたがるような道を切りひらいてやること」とありますが、筆者は、「道を切りひらく」ためには、どのようなことが必要だと考えていますか。次の文の（ ）にあてはまる語を、文中から漢字二字で抜き出して答えなさい。

「子どもにとって新しいことや未知のことと触れ合う機会や体験を与えることと、やらせと与えるだけでなく、その体験を自分も（ ）し、感動や再発見を分かち合える大人として子どものそばにいること。」

問七——線部⑤「目にはしていながら、ほんとうには見ていない」とありますが、「ほんとうには見ていない」とはどのようなことですか。「〜こと」につづくように、十五字以内で答えなさい。

問八——線部⑥「もしこれが、いままでく見ることができないとしたらう。」とありますが、この部分で作者はどのようなことを伝えようとしていますか。次の中からもっとも適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア このように考えることで、経験したこととそうでないこととの違いを明確に理解できるようになること。

イ このように考えると、時間は一瞬もむだにできないことがわかり、時間を大切にするようになること。

ウ このように考えることで、物の見え方が変わり、それまで見えなかったものが見えてくること。

エ このように考えると、物事の本当の価値を理解できるようになり、価値が高いものだけを選ぶようになること。

問九 本文中の Ⅱ には、実際の人々の様子が入ります。どのような内容の文が入ると考えられますか。自分で考えて、

十五字以内で答えなさい。

問十 本文の内容と合っているものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 同じ景色を見るのにも、その対象に心をどのように向けられているかによって、見え方は大きく異なってくる。

イ 現代の親は暮らしの便利さを求めて自然を軽視したため、子どもたちも大切な感覚をもたなくなってしまった。

ウ 子どもは洞察力や直感力を失わせないためには、子ども時代を自然の豊かな場所で過ここさせなければならぬ。

エ 子どもと一緒に自然に触れることにより、子ども時代には得られない新しい感覚を大人も得ることが出来る。

オ 子ども時代にもっとも大切なことは、日常にあふれている自然と触れ合い、感じる心をはぐくむことである。

カ 子どもたちや大人自身の感覚をみがいていくために、有名な美しい自然の光景に数多く触れることが大切である。

